ヒゲナガカワトビケラ

Stenopsyche marmorata

ヒゲナガカワトビケラ科

ヒゲナガカワトビケラ（幼虫）。右は巣

名前の由来

「ヒゲナガ」は成虫の触角が長いため。後は川のトビケラという意味だと思われるが、トビケラの意味は不明。
漢字名：髭長川飛蠖

形態的特徴

幼虫の特徴：体長約30～40㎜。色は暗褐色か暗緑色を帯びる。頭部は長く、前肢亜基節突起は基方のものが先方のものより長い。砂利を集めた緩い巣を大きめの石の上に作り、餌を濾しとるための網を作る。

成虫の特徴：体長約11～18㎜、翅開張約27～48㎜。全体に地味であり、姿はガに似る。触角は前翅長の約1.5倍ある。

類似種と見分け方：チャバネヒゲナガカワトビケラ。チャバネヒゲナガカワトビケラは前肢亜基節突起が先方のものが基方のものより長い。

ヒゲナガカワトビケラの成虫

生息環境・分布

水質の良好な上流から中流にかけての早瀬や平瀬の浮き石底。

分布：国外分布は、樺太・満州・沿海州・シベリア・朝鮮・台湾。

国内分布は、北海道～九州。北海道内では、普通に分布。十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

河川水中の流下物を濾過摂食する雑食性。

礫間を巣で固めるため河床環境を変化させる。強固で複雑な環境を作り出すため、他の底生動物の種数が増すことある。反面滑らかな礫を利用するヒラタカゲロウ等の生息を阻害することもある。

巣から離れた場合には魚類の良い餌となる。

繁殖生態・寿命

交尾が済み卵の成熟したメスは、体の周りに空気をつけて水中に潜り、大礫の裏側に卵を産み付ける（潜水産卵）。

興味深い話

■しばしば底生動物相中では最も生物量が大きくなる。礫間に生息するため、浮き石の存在やある程度の撹乱があることの指標となる。

■釣り餌によく使われる。

■幼虫の時は緩い巣を作るが、サナギになるとしっかりとした巣を作る。

■信州では水生昆虫を「ざざ虫」と呼び、漁労して佃煮にもするが、ヒゲナガカワトビケラの割合が多いようだ。

■十勝地方のアイヌ語ではトビケラ類幼虫を「ウォルンカムイ」という。

配慮事項

浮き石裏に生息するため、礫間の目詰まりは生息に悪影響を及ぼす。平瀬や早瀬の産卵場所に直径10cm以上の礫が必要である。水質汚濁にも影響を受ける。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成　虫　期												

参考文献

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次　東海大学出版会　1995

「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター　1996

「アングラーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力　出版文化社　2000

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ　分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社　1976